

地域づくり活動 NPO 事業助成（先導的・先駆的）事業 実績報告

団体名	特定非営利活動法人 さんぴいす	代表者名	理事長 河口 紅
事業名	多世代女性のネットワークでWithコロナのコミュニティをつなぐ「Migaku」事業		

<事業実施実績>

年 月 日	活 動 内 容
2020年4月 ～2021年3月	毎月1回程度、連携団体と本事業に関する打ち合わせをオンライン又は実地で開催した。
10月14日(水) 10:30～12:30	第1回ステイホーム期間に関するグループディスカッション ファシリテーター：河口紅 参加人数：5名 会場：あしや市民活動センター 内容：ステイホーム期間に何を体験し、その後何が変化したのかなどをディスカッション形式をとることで、さまざまな意見の収集につとめた。この回では、参加者を「子どもと同居していない女性」対象とした。ZOOMでオンライン開催としたがディスカッションの内容が個人的な話題となるのが予想されたため、守秘義務の観点から事務所からZOOMを使うのではなくあしや市民活動センターの会議室を借りてそこからつないだ。
10月17日(土) 10:30～12:30	第2回ステイホーム期間に関するグループディスカッション ファシリテーター：河口紅 参加人数：2名 会場：あしや市民活動センター 内容：ステイホーム期間に何を体験し、その後何が変化したのかなどをディスカッション形式をとることで、さまざまな意見の収集につとめた。この回では「夫婦だけで暮らしている女性」を対象とした。ZOOMでオンライン開催であるが実地会場を使用している理由は第1回目と同じ。
10月23日(金) 10:30～12:30	第3回ステイホーム期間に関するグループディスカッション ファシリテーター：河口紅 参加人数：4名 会場：あしや市民活動センター 内容：ステイホーム期間に何を体験し、その後何が変化したのかなどをディスカッション形式をとることで、さまざまな意見の収集につとめた。この回では「子どもと同居している女性」を対象とした。ZOOMでオンライン開催であるが実地会場を使用している理由は第1回目と同じ。
11月～3月	コンテンツ企画・開発期間 グループディスカッションの結果をもとに今回開発するコンテンツを連携団体と協力しながら企画開発した。1月後半からはインターネット上で使用できるシステム開発に入り3月に完成した。
3月25日(木) 10:30～12:30	カードシステム体験会の開催 ファシリテーター：河口 紅 システム開発責任者：大脇巧己 参加人数：6名 会場：芦屋市民センター会議室 内容：当日はオンラインと実地開催を同時に行うハイブリッド形式をとることで、どちらのスタイルとなっても対応できるかどうかを検証することができた。（実地4名、オンライン2名） 実地、オンラインともにグループディスカッションを行いこのカードシステムに対する評価をしていただいた。

<効果と成果>

コロナ禍により、最初の緊急事態宣言が発令された際にこれまでに私たちが経験したことのない「ステイホーム」で自粛することを余儀なくされました。その結果、さまざまな社会問題が顕在化しました。経済状況の悪化や教育の遅れなどは行政が取り組む問題であると思いますが、地域活動や今後のコミュニティの在り方を考えて、取り組むのは地域に根差したNPO でなければできないと思い本事業を実施しました。グループディスカッションでリアルな生活者の声を聞き、その結果をもとに、「ニューノーマル時代の人とのつながり方」を考えるコンテンツとして「地域マーケティングカード」を開発し、インターネット上で誰もが活用できるシステムを開発しました。

<http://sanps.jp/migaku/card.html>

今後のコミュニティの在り方に対する「正解」はどこにもなく、私たち一人一人が今後どのようなコミュニティを形成したいかという想いを具体化することが望まれています。本事業がその一助となり多くの人々が当事者意識で地域コミュニティの担い手になることを期待しています。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	400,000
自己資金	93,805
合 計	493,805

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち助成対象金額 (円)
直接経費	人件費	297,500	266,500
	印刷費	80,000	80,000
	謝金	33,000	33,000
	その他 (会議費等)	5,604	5,500
	小 計	416,104	385,000
	間接経費 (一般管理費)	77,701	15,000
	合 計	493,805	400,000